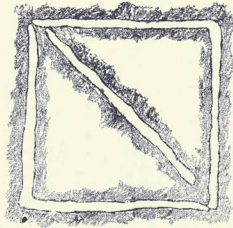


い
は
し
た



あ
ま
あ

口徑一尺五寸
高二尺八寸



上は森一族の最も古い關印の形式で、天正、慶長の境より一族が分裂すると共に
上を基本として、上・上ミ・上ト・と分れ、更にその後徳川中期より 田、正
上、正、等に分れた。

第一三二圖

慶長前後の壺にあつ、口は森の一族であつ、之等が最も古いもの
であらう。

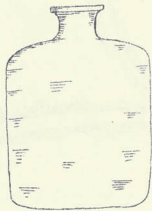
上

第一三二圖 森 才之助 (寛永元様年圖)

森才之助の製作品は多く、徳利の類で、曲線ミ変形のものを多く作り出してゐる。



(底にあり)



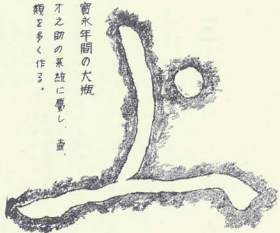
高 一尺五寸

第一三三圖 元和・寛文・年間の壺

(果ハハ)



口徑四寸(底・伏焼)
高 一尺



第一三四圖 寛永年間の大瓶

森廉ハは森才之助の系統に屬し、壺、徳利、瓶の類を多く作る。

第一三六圖 大塚定右衛門 (文政嘉永年間)

大塚定右衛門は森家に屬し、主として徳利、雜器の陶工。



藤七の代に森姓より大審に改む。

藤七の花押

五



第一三七圖 大審定八郎（文政五年八月三日生）
（元年不明）

大審定八郎は定右衛門の子にして、主として雑器の陶工。

上

上

第一三八圖 森源左衛門能次（天保十一年生）
（寛保三年六月廿九日歿）

森源左衛門（通稱）は上手物の作者にして、瓶・土瓶・水指・罎など多く製作し。

上



高六寸五分

森五郎三郎久包は森左衛門能次の子にして、上手物の作者である。

正



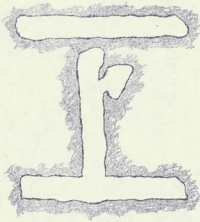
口徑一十一分
高一尺三寸五分

第一四〇圖

森源左衛門(官曆・文化年間)

大瓶の陶印

森五郎三郎の子にして、雑器を作る。



(判)

本如、彦左衛門、源権源左衛門と云ひ、主として型物を製作してゐる。

天保二長二月



(正型)中皿の裏にあり



弘化二
森源

(瑞初)の辣水入の裏面にあり

第一四二圖

森平一郎

(文政十三年九月七日生)

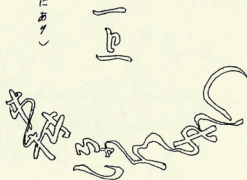
森彦左衛門の子にして作品は柄々、多る感あり。雑器類を主として製作し、



(徳利華小形のものにあり)

五

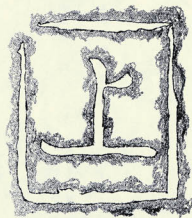
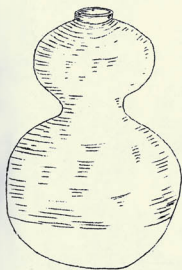
(繪伊部小皿の泥型にあり)



第一三圖 森 五兵衛正統 (文化・文政年間)

森 五兵衛正統は茶屋佐伊の名人で、俗に「歌立五兵衛」と稱して、其の字印に「五」の如く、あだかも歌かけ舟を思はず様を五の字を用ひてある。其の知栗研片上町にある八幡宮境内の唐獅子は、五兵衛と那智昇共の合作にして、伊勢屋唐獅子中の最も傑作に屬するものである。

五



(蓋印)

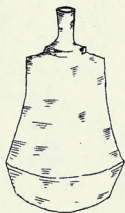
知栗研片上町・八幡宮唐獅子の銘の一部

森 五兵衛 正統

第一四圖 森 五平 (文政元年八月二十日生)

森 五平は五兵衛正統の子にして、尤憲に屬す。

上

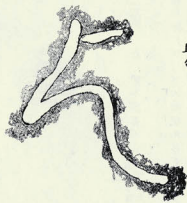


第一五圖 森 壽太郎 (享和六年二月十九日生)

森 壽太郎は五平の子にして、主として雅好を作る。

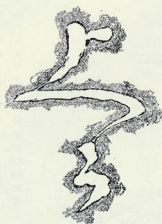


上々

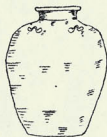


第一四七圖 森 左兵衛 (寛政・文政・年間)

森 左兵衛は主として瓶類の製作に従事してゐる。



口徑四寸三分
底九寸五分
高四寸



森 武平次は多く茶器類及び文人好みのものを製作してゐる。



第一四九圖 森 榮吉 良明 (生年不明 文化十一年二月十八日歿)

森 榮吉 良明は享和年間以降ける茶器作りの名人ナリ、良明は家印に「上」を用ひ、手印に「下」用ひ、及「下」向しの字を用ひた。



手鉢

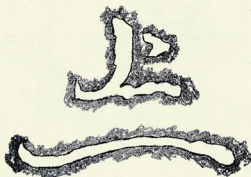


第一五〇圖

森 甚治郎良康

(昭和元年九月十六日生) (昭和九年十月廿七日歿)

森 甚治郎良康は華古良明の子にして、融通家俗に天保室といふ小室の新室に就て、木村藏三郎良幹と共に發起者と互り、之に成功した。所謂天保室の功勞者の一人である。作品は比較的雑器が多い。



第一五一圖

森 甚次郎良久

(文政七年九月三日生) (明治廿四年二月一日歿)

甚次郎良久は甚治郎良康の子、主として親、その他雜器を作つてゐる。



第一五二圖

森 泉太郎良明

(貞永三年五月廿四日生) (昭和十年五月二十日歿)

泉太郎良明は甚次郎良久の長男にして、八十六歳の而して保つ、作品は特に神社の唐獅子が多い。



5



第一五三圖

大峯清石齋門

(生年不明) (延享元年四月五日歿)

大峯清石齋門は主として、茶器類を作つてゐる。

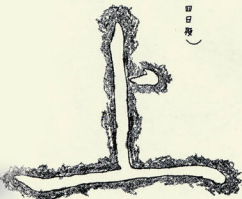


第一五四圖

大峯清石齋門

(生年不明) (昭和四年八月廿四日歿)

清石齋門は産物にして、先代清石齋門の子、主として撫類をよく造つてゐる。



二

第一五五圖 大饗與志石衛門（寛永年間）

大饗與志石衛門は主として、瓶、壺様の厨工、舟室に屬す。

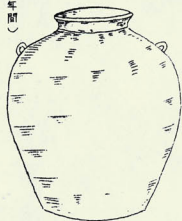


第一五六圖 大饗與一左衛門（寛永年間）

主として瓶、壺様を造る。



第一五七圖 大饗藤次郎（寛暦・天明年間）



第一五八圖 大饗藤次郎（文政・嘉永年間）

藤次郎は西室に屬し、多く壺様を作る。



第一五九圖 元林・曾原・守間の土饗



第一六〇圖 大饗清左衛門（寛暦・文化・年間）

清左衛門は藤助の者にして、西室に屬す。茶器類文人好みの作品多し。



第一六一圖 大饗榮助（天明・文化年間）



第一六二圖 大饗永介（文政・嘉永年間）

大饗永介は西室に屬し、瓶、壺様を造る。



第一六四圖 元和三年任銘の花瓶

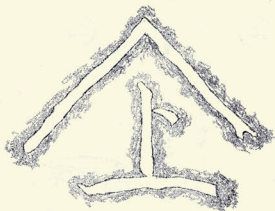
奉為所直桂林院殿前志州大守
月峯淨心大御足門也
元和三年丁卯秋吉日
備前國和置郡伊部村大饗五良共齋尉
敬白

元和三年

大饗五良共齋尉

第一六五圖 大饗七郎兵衛(寛文・元禄・享間)

第一六三圖 大饗平次(文化・文政年間)
大饗平次は帝室に屬してゐながら、作品が非常に少く、殆んど残つてゐない様
である。



花筒並菓

口徑三十八分
第一尺